

令和 2 年度第 4 回仙台市青葉区区民協働まちづくり事業評価委員会議事要旨

日 時：令和 3 年 2 月 26 日（金）

13 時 30 分～16 時 00 分

場 所：青葉区役所 7 階会議室

出 席：島田委員長、青木副委員長、加藤委員、
金委員

※過半数の出席により委員会成立

1 開会

2 挨拶 仙台市青葉区区民協働まちづくり事業評価委員会委員長 島田 福男

3 議事

(1) 議事録署名人選定 加藤委員

(2) 令和 2 年度青葉区区民協働企画事業報告会

◇各事業内容報告

◇質疑応答、意見等

① 仙台市はたるの里づくり

委員 コロナ禍の中で、大変苦勞されたと思う。そんな中で、コロナの感染防止を図り、活動されたということに対して非常に感銘している。感想であるが、事業の成果、達成度の中で、新たな活動としてはたるの里親の会が実施できたということが成果であるということに対して、これは本当に評価したいと思う。2 つ質問である。これから学校との連携を図っていくためにというところで、当然団体の中でも工夫した活動を検討していくと思うのだが、学校の先生方に協力をお願いして、先生や子ども達の中で、色々どうしたらこの活動が継続できるか、安心して人が集まれるか、参加できるかというものを提案していただいて、その意見を参考に、再度それを検討して実施すると、新しい形を作ることができるのかと思う。また、SNS を活用しているということだが、活動の情報の提供だけではなく、実際に関わってくれる人、会員や協力者を募集するというような内容で、SNS を活用してもいいのではないかと感じる。やはりこういった素晴らしい活動に関心のある人もいると思う。活動したいけれども活動の場がないとかきっかけがないという人はいると思うため、この社会状況の中で SNS というのは非常に有効な手段の一つと思う。さらに活用してほしい。

委員 お祭りの実施は中止ということだが、この生息状況のその他のところを拝見すると、それぞれのところで自由観察や観察会、家族連れでの見学等、基本的な地域での動きというのは、できる範囲の中でやられていたのかなと伺っていた。提出いただいた書類の中に、各区で行われてきた活動を見直すきっかけにもなったという書き込みがあるため、全体としてはできなかつたことがあるけれども、何かプラス要素が見出せたということであれば、少しその辺をご紹介いただきたい。

説明者 これまではお祭りとなると、本当に一大イベントで、準備から後片付けまでで1年分のエネルギーを使っていた。しかし、今回はお祭りがなくなったことで、土砂が流入しているとか、歩く遊歩道が少し不自由なところがある、若干えさとなるカワニナが減っている等そういったものを整備し増やしていく活動を、今年は重視できたというような意見があった。お祭りとなると、地域ボランティアの方々が一気に集まって、パッとあとは散ってしまっただけで、その後の清掃活動や見直しの活動等はできていなかった。今回はそれができたということで、各地域で良かった点として挙げられていた。

委員 先ほど、担い手の方も含めた新しい参加者がなかなか難しいとの話があったが、そういう原点の活動から少し継続的に関わっていく方を発掘していく等、関係を作っていければ良いのかと思った。関心はあっても、実際に活動にどれほど継続的に関わることができるかという点とまた別の感覚と思う。今後の事業の目標展開の最後のところに、ほたるの里親の会は拡大を目指すのではなく、継続を目指していくというような書き込みがあるように、皆さんが楽しんで、その継続できるサイズ感を大事にしていただけならばと思う。協議会として何をやるかと言ったときに、各地域の中でこういったところがあるということや、そこで楽しんでいる関わる方々の様子などを発信していくと、催しのために非常にエネルギーを要してしまうというよりは、色々なツールを通して皆さんから寄せていただいたもので活動の組み立てを考えるのも良いのではないかと感じた。祭りの復活を目指すというよりは、お話があったようなところから仲間を増やしていくような、そういった展開もあるのでないかと感じた。

② 第22回西公園キャンドルライトファンタジー

委員 今年度は、コロナ禍ということで開催できなかったことは、本当にやむを得なかったと思う。ただ、子どもたちが大変楽しみにしていて、保護者の方も一緒になってやろうという気持ちが強いと思うため、今後もぜひ続けていただきたい。ましてこのところは学生が積極的に参加しているということのため、繋がりは大変重要にしてほしい。また、コップに絵を描くことはできるという話だが、例えば絵を描いて、それをオンラインで見せるということは少し効果が薄くなってしまわないか。

説明者 はっきり言うと、並べることは学校の先生や、来ていただいたPTAの方々を手伝っていただき、子ども達も含めて、中学生になると中学校の生徒会が大体動いてくれるところが多い。自分達で図案を考えて並べるというのは、やはり小学生だとどうしても親がやることになる。中には幼稚園も入っているため、オンラインはオンラインで良いと思うが、並べるのが難しい。こちらで全部並べて、あとは子ども達が描いた絵柄の通りになるかどうかとか、こんなはずではなかったとなってもよろしくない。現地に来ていただければ分かると思うが、ただ見るとろそうそくがあるだけだが、レンズを通して写真を撮るとすごく分かりやすくなる。オンラインまでは今のところ考えていないが、この状況が何年か続くのであれば考えなければならぬという気持ちである。あとは、光のページェントと同じように、親御さんが子ども達と一緒に街の中に遊びに来て、キャンドルを見た後、光のページェントを見ながら、ご飯でも食べて帰

る等、そういう親と子の触れ合い的なものも時期的にできれば良いなと思っている。なるべく皆さんに来ていただいとすることを考えて、これからも現地でやることを模索していきたいと思っている。

委員 やはり1度に大勢が集まるということはなかなか今後も難しいと思いつつ、一方で、小規模分散という発想で、例えば定禅寺通りの活性化の催しもあるため、地域と連動する形で、少し規模感をコンパクトにという発想でできることもあるのかと伺っていた。色々な方の参加があるため、そういったところを少しでも維持できるような形で、また、静止画もあるが、動画で少しコンパクトに撮って、毎年見ることができるといふ楽しみとして続けられるのも良いかと感じた。規模感を調整すると、やりようがあると感じる。西公園で始まったため西公園全域というよりは、そのエリアの定禅寺通りからの繋がり等、そういう視点で何かないかなとも思うため、もし今後継続の方向で皆さんの話し合いがあるとすれば、少し参考にさせていただければと思う。

説明者 1ヶ所に集中させる理由としては、ステージのトラックを入れて、そこで学生達のアカペラや立町小学校の子ども達のクリスマスソングを行うため、どこにでも見えるようにということが、ある程度導線として考えているためである。ただ、車の後ろの方には遊具施設等広場があるため、公園課さえよければそちらに広げるとすることも考えている。確かにどうしてもコンパクトにと、1ヶ所に集めるような形での配置で考えている。今の考えでトラックの位置を少し変えることによってもしかずともう少し密にならないようにできるのかと思う。実際、人がたくさん来るのは最初だけで、8時の終了時刻に近づくとほとんどいない。逆に光のページェントを観光バスで見に来た方々が、通りすがりに何をやっているのかというくらいで、そういう意味では学生とも相談していきたいと思う。

委員 コロナ禍の中止という決断は大変だったと思うが、その中止というのが決まった時に何か学生からの反応はあったか。

説明者 反応は、スマホの小さな画面で2人くらいと話ただけだが、学生たちも、これだけではなく、他のコミセン祭り等色々なことをやっていて、どれも駄目だったと言っていた。あとは、学校に行けない時期であったが、そろそろ学校には行けそうだという話もした。ただ、この会議の時期は我々と会うこともできなかつたため、来年こそやりたいねという話をした。今年できなかつた分、来年は頑張らなければという気持ちが伝わってきた。

委員 オンラインのYouTube ライブ等では、流星群の動画等も流れているため、仮にこのままの状態でもコロナが収まらなかつた場合は、せっかく素敵なイベントなので、何とか多くの方が見られるような形にさせていただければと思った。

③ 回文の里づくり

委員 どこの団体もコロナ禍ということで、大変ご苦労されているが、例えば新川分校で行った回文教室等のコロナ対策は具体的に何か。

説明者 人数が1桁であったため、コの字に座って間隔をとり、図書室で行ったということとで入口のところには消毒液等を置き、マスクをして実質30分位の中身であったが、一

応できる対策はした。

委員 9名参加されたということだが、どういった方が参加したのか。

説明者 どちらかという高齢者、中年である。あとは隔週土曜日の図書室開放というのがあり、それによく来ているような人たちが参加した。

委員 地元の方か。

説明者 新川の人達である。

説明者 (おみくじ配布) これは去年作ったおみくじだが、強力なのりを使ったため、爪楊枝で開けてもらえると良い。端を開けると面白いものが出てくると思う。作品を活かすということで、こういうものや、ちょっとしたところで上手く使えないかというキヤッチコピーみたいなものを今考えている。

委員 ラサントでコーナー出展したとあり、私もラサントを時々利用しているが、区民だけではなく、色々な方が利用されると思うため、その時の反応はどうであったか。

説明者 驚くほどにはなかった。電話で、かるたはどこで売っているか、コンテストは今年もやるのかというような問い合わせはラサントに入ったと聞いている。その問い合わせは全て私に来るように対応しているが、そういう回文の問い合わせが来た時にある程度対応できるよう、今はあまり定期的に行っていないが、月2回ラサントの一角に少しでもいることで、回文の宣伝になると思っている。また、もう1つは、今年で23回になるが、1回~22回目までの作品集がある。その作品集も一体在庫がどのくらいあるのかというような確認も、今まではそんなにしていなかった。そういうものを確認して、その時の作品集がほしいと言う人にすぐに対応できるよう、作品の整理という中にはそういうものも入ると思う。あまりいないが、回文を気にして作並に来ている人が、来てよかったとなると良い。来ても誰も教えてくれないみたいなことがないようにしていきたい。あとはラサントの隅っこにでも、少し広く置いてもらえるようにしたいと思う。

④ 大倉ダムの魅力発信事業

委員 第2回にもかかわらず公園の改修にも繋がっているということは、大倉ダムの魅力が伝わっていることと思う。実際に当日来られた方の評価は何かあるか。

説明者 第1回目の時には色々と意見を頂戴したが、今年はあまり傍に寄ったり、アンケートを実施したりということはしていない。そのため、そういう声というのはあまり届いていないが、去年も来た人の話では、随分公園が変わっているとのことであった。

委員 作成したYouTubeの中に、実際に鯉のぼりを掲げているシーンを入れて物語性出すというのは大変素晴らしいことと思う。何かそういう活動を終えて、鯉のぼりがあがっているというストーリーが伝わることによって大変関心が高まるのではないかと思うため、ぜひ来年以降も頑張っていたきたい。

委員 書類を拝見した後に私もYouTubeを見させていただいたが、その時は音を一緒にしていなかったので、BGMをつけたことを初めて知った。作詞作曲オリジナルか。

説明者 普通こういうYouTubeに歌を入れるのは難しい。しかし、たまたま大倉、定義の西方寺の奥様が国立音大を出た方で、大倉小学校の生徒のために、大倉地域のためにと

この大倉の空の下でというタイトルで、作ってくれたものである。YouTube を作ると決まった段階から、もう挿入歌はあれしかないみんなの中で決まっていた。その住職の奥様をお願いしたところ、すぐに OK というような形で了解いただいた。

委員 関係者の皆様が参加して、上手く作られていると感じた。書類の方に、いろいろ収穫が大きかったとのコメントがあるが、何か今のご報告の内容以外に、新しい発見があるようであれば、もう少し伺いたい。

説明者 やはり一番大きいのは、前回 1 回目時には、結構な金額の委託費を払って設置は建設会社の高所作業に慣れたプロの方をお願いしているが、今回は一切そういうことなく、全部地元の方、建設会社の若い人が来てくれた。そういった人が手伝ってくれて、そういう業者に頼らなくてもできたというのが一番大きな収穫であった。また、公園の整備では、今までは雑草が生い茂って普段あまり行く人もいないくらい不気味で、たまに行くとイノシシが掘っくり返して荒れていたような芝生もあった。しかし、最近はそういうことがなくなり、普段でも、散歩で訪れる人が増えているというような状況である。やはり公園の整備に繋がったことが大きかったと思う。

委員 今思い出したが、確か作並で野草の写真等撮っているメンバーの方もいらっしゃった。そういった地域で活動している方々とコラボすると、良い素材を、写真や動画等、色々な形で発信していくことができるのでないかと思う。魅力発信という意味では、今ある団体の皆さんとの連携等、先ほどの回文で作並をとということであったが、風景を読んでいただくとか、色々な方々と繋がる素材がたくさんあるのかと思った。鯉のぼりが定番のプログラムになると思うが、色々な切り口で、回を増すごとに内容が充実していくのでないかと思った。

⑤ 宮城地区まつり

委員 今年開催できなかったことは大変残念であるが、コロナのことを考えると仕方なかったと思う。来年度に向けては、プロジェクトチームを立ち上げたということだが、社会人と学生の比率はどのくらいか。また、事務局は何人ぐらい参加しているのか。

説明者 比率は、ほぼ半々となっている。また、事務局は、担当 1 名と課長、係長の合計 3 名で対応している。

委員 非常に楽しみにされていた方もいらっしゃると思うが、こういう状況で仕方ないとはいえ、大変残念と思う。2 点質問である。まず、プロジェクトチームが発足したということだが、どのように募集して任期はどのくらいか。

説明者 任期については、1 年ということをお願いしている。募集の方法については、直接学校等に出向いて声をかけた方もいらっしゃれば、昨年以前のお祭りに出店、出演の形で参加されていた方に、直接お声掛けをしたりした。公募もしたが、反応はなかった。

委員 大学生や高専の学生等か。

説明者 高専の学生 3 名とデジタルアーツ仙台という専門学校の学生である。以前から音響の関係で祭りの委託を先生にしていたというお付き合いがあったため、そこからお願いした。

委員 支出の部分で消耗品費が3万円とあるが、例えばどういったものか。

説明者 資料の印刷などにカラープリンターを使っているため、インクにお金が結構かかっているという状況である。

⑥ 仙台伝統ものづくり塾事業

質疑応答なし

⑦ 仙台の昔を伝える紙芝居作り・上演事業

委員 昔は、紙芝居というと外で、私達の頃はテレビがなかったためよく紙芝居が来るのを楽しみにしていた。今の子ども達も紙芝居を見せると喜ぶ。こういうコロナ禍ではあるが、紙芝居、特に仙台の昔を伝えるということで、子どもだけではなく、高齢者もあんなことがあったなとかいうことで、需要があると考えます。老人クラブ等そういうところでも需要があるのでないかと思う。紙芝居にすごく期待しているのだが、期待の割にはなかなか広がっていかない。34ページの10のところ、内容よりも広報手段の検討が必要とあるが、正しくその通りと思う。何とか広報手段を考えて、もう少しみんなに知ってもらい、喜んでもらえるような活動になればと思う。

説明者 今年度初めての取り組みとして動画撮影を行い、せんだい tube に掲載した。昨日見たところ380回位の再生回数であった。そのため、多少なりとも今まで見たことのない方には届いているのかなと思うが、今後もそういった動画の活用や、新しい広報の仕方というものを実行委員会で検討していきたい。

委員 後継者、演者を育てることが大変重要だとは思いますが、今年度自分で上演できるという方はどのくらい増えたのか。

説明者 今年度は上演体験を開催できなかったため、来年度以降、実際に上演したいという方はいても、実行委員会の中で、その方が上演会の場で披露できるようにという話までにはなっていない。そのため、現時点では1人もおらず、実行委員の3~4名で上演している状況である。

委員 高齢化の問題で時間的な余裕もないと思うため、ぜひその辺、先ほどの広報との繋がりも出てくると思うが、多くの方に知っていただき、自分も上演したいという方が、増えることを祈っている。

委員 区に関わり方の部分で、完全な自立を目指すのではなく、事務局負担がある程度軽減できるような運営体制について検討したいとあるが、具体的にどのような体制を検討するのか教えていただきたい。

説明者 上演会を開催するとなった時の広報チラシの作成や、上演会場まで機材を運ぶ等、事務局だけでなくもみんなが集まればもっと簡単にできるようなことも、なかなかお手伝いいただけていない部分があるため、少しでも自分達で会を成り立たせるといふ意識を持っていただければと思っている。

(3) その他

4 閉会